

2,011年12月18日 イラク駐量米軍最後の部隊が、国境を越えて隣国クウェートに入り、撤退を完了した。その4日前の14日には、オバマ大統領が「戦争終結」を宣言し、イラク戦争は2,003年3月20日以来約8年9ヶ月を経てついに終わった。

が、実はこれまで「戦闘終結宣言」は2度出ていた。1度目がブッシュ前大統領により、2,003年5月1日サンディエゴ沖の空母艦上において、2度目がオバマ大統領により2,008年8月31日に大統領執務室においてである。この"おかしい終結宣言"に、「早く戦争を終わらせたい」と切望する米国指導者達の苦悩が透けて見える。湾岸戦争時に統合参謀本部議長だった コリン・パウエルも常々「戦争を始めるのは簡単だがやめるのが難しい」と言っていた。国連本部前の碑文にある聖書の言葉

「彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。」と書かれたイザヤ書2章4節

の言葉は、"平和の象徴"として有名だ。だがこの一節の冒頭には

「主は国々の間をさばき、多くの国々の民に、判決を下す。」

という言葉が省かれているのをご存知だろうか？ したがって全文を載せると

「主は国々の間をさばき、多くの国々の民に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。」

となる。つまり "神が国々をさばいた結果、戦争はなくなり平和が来る" ということだ。ちなみに碑文には"2章4節"とは書かれておらず "イザヤ書" とだけ書かれている。省略したのだから当たり前だ。この碑文を設置した人たちは "神抜きの" 人間だけで平和が実現できると信じているのだろう。それは "おかしい終結宣言" をした指導者たちや、家庭問題や会社のイザコザに明け暮れる私たちも同じだ。"平和の君 = キリスト" 抜きの平和はあり得ない。

